

秩父市セーフコミュニティ 国際認証報告書



2015年11月
埼玉県秩父市

<ごあいさつ>

「世界に誇れる安全なまちづくりの推進を」 ～セーフコミュニティちちぶ～



秩父市では、質の高い安心・安全なまちづくりを実現するため、セーフコミュニティの国際認証制度に着目いたしました。2012年（平成24年）9月から取り組み始め、3年を超える月日が経過いたしました。この間、私たちは、市民の安全向上のため、協働組織の設置、各種データの収集・分析、7つの重点分野の対策委員会における検討、そして課題解決のための取り組みの実施など、まさしく市民が主体となった活動を推進してまいりました。

秩父市は、人口の減少に歯止めがかからず、財政的にも厳しさを増している状況にあります。本来、安全なまちづくりの基本は、「自助」にあります。自分の安全は自分で守ることが大原則です。しかし、超高齢化社会においては、「公助」により守らなければならない人たちが増加の一途をたどっています。一方で、厳しい財政事情から、すべての高齢者や社会的な弱者を行政サービスだけでカバーすることには限界があります。そこで、地域住民や関係団体などが協力し助けあう「共助」の仕組みが重要になります。秩父市が、将来にわたり「安全なまち」であり続けるためには、あらゆる市民、地域、組織、企業、行政が一体となって協働する「共助のまちづくり」が欠かせません。こうした観点から、セーフコミュニティの取り組みを進めてまいりました。

このたび、国際認証審査員による現地審査を受け入れた結果、認証基準の7つの指標を満たしているとのことご評価をいただき、晴れてセーフコミュニティネットワークメンバーの仲間入りを果たすことができました。これも、ひとえに多くの市民の皆さんのご努力の賜物であると感謝しております。

今後、このプログラムを継続していくことで、より多くの成果が生まれることを確信しております。このように市民が力を合わせて、地域の安全の向上に一丸となって取り組んでいく活動は、秩父市のみならず、同じ課題を抱える日本全国の自治体にとりましても、価値あるものだと感じております。国際認証の取得を新たなスタートラインとして位置づけ、世界に誇れる安全なまちづくりを展開していきたいと考えております。

結びに、秩父市が安全で安心なまちであり続けるため、どうか関係各位におかれましては、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

2015年（平成27年）11月

秩父市セーフコミュニティ推進協議会長

秩父市長 久 喜 邦 康

目 次

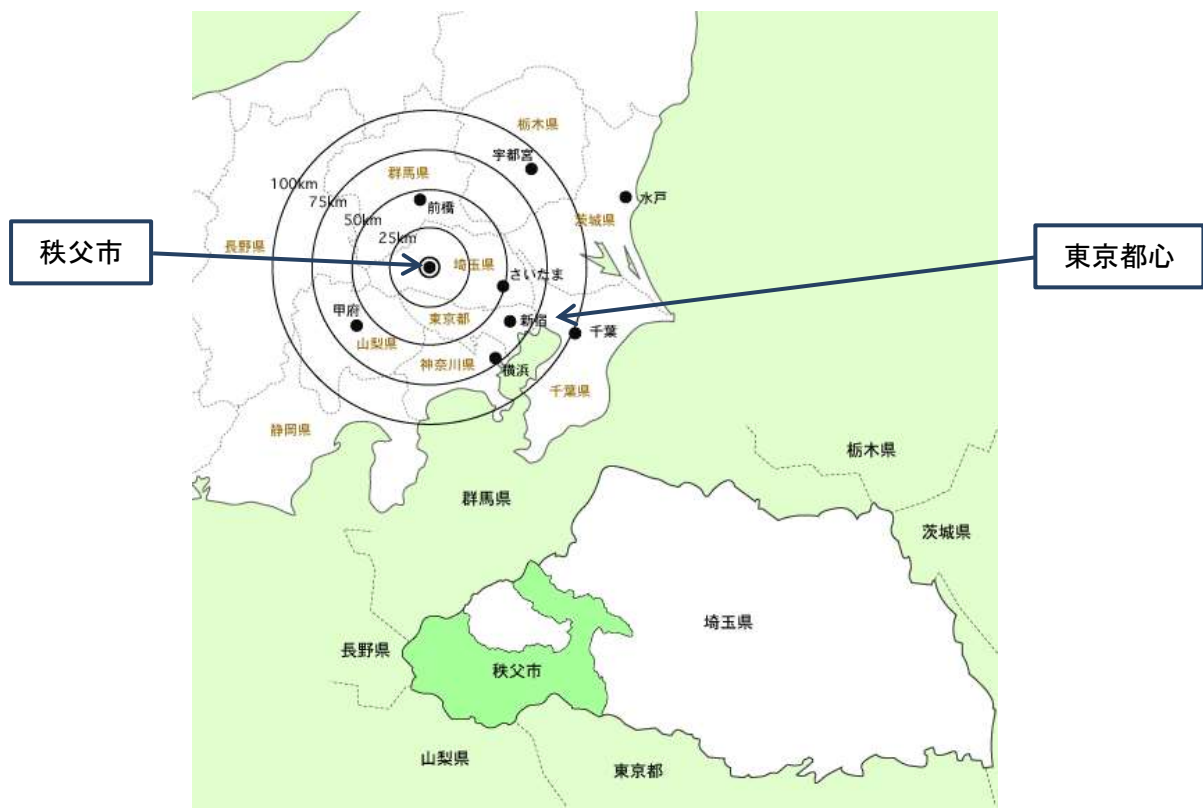
第1章 秩父市の概要	1
第2章 セーフコミュニティとは?	4
第3章 セーフコミュニティへの取組み	6
第4章 外傷による死亡・けが、事故などの状況	7
第5章 7つの指標に基づいた取組み	13
指標1 分野を越えた協働を推進する組織	13
指標2 すべての性別・年齢・環境に対する長期・継続的な予防活動	15
指標3 ハイリスクのグループや環境に焦点を当てた予防活動	16
指標4 入手及び活用可能な根拠に基づいた予防活動	18
指標5 外傷や事故が発生する頻度・原因を継続的に記録する仕組み	29
指標6 予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組み	32
指標7 国内・国際的なネットワーク活動への継続的な参加	33
第6章 セーフコミュニティ活動の長期的展望	34



第1章 秩父市の概要

1 地勢・人口

秩父市は、埼玉県の北西部にあり、人口は7万人弱、面積は577.83平方キロメートルで、埼玉県全体の約15%を占めています。東京都心まで約70km圏、さいたま市までは60km圏に位置し、周囲に山岳丘陵を眺める盆地を形成しています。市域の87%は森林で、その面積は埼玉県の森林の約40%を占めています。ほとんどは秩父多摩甲斐国立公園や武甲・西秩父などの県立自然公園の区域に指定されており、自然環境に恵まれた地域です。

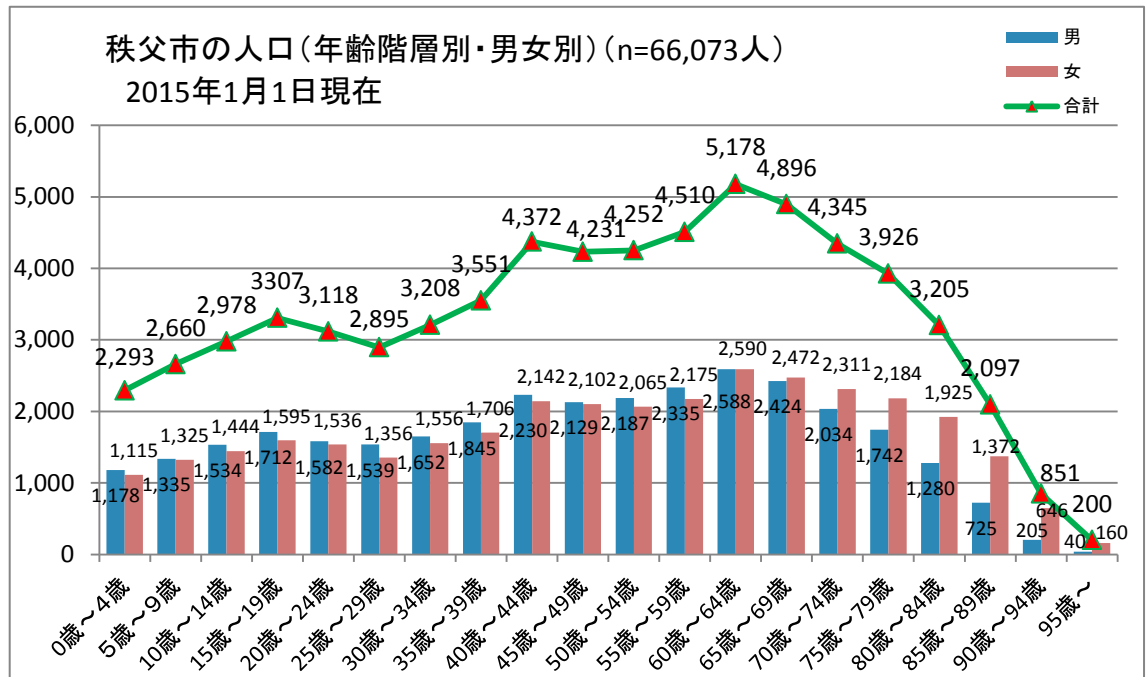


- (1) 人口：66,073人 (2015年1月1日現在)
- (2) 世帯数：26,343世帯 (2015年1月1日現在)
- (3) 面積：577.83km² (広がりは、東西41.6km、南北31.7km)
- (4) 海拔：233.2m (市役所本庁舎の位置)

出典：秩父市統計資料

○人口

秩父市の人口は、66,073人(2015年1月1日現在)で、年々減少する傾向にあります。全国平均と比べても減少率が高くなっています。また、少子高齢化も進行しています。



出典：秩父市市民課

2 産業・文化・教育等

○産業

秩父市は、古くは「秩父銘仙」に代表される織物産業が盛んでした。その後、日本の近代化とともにセメント産業が中心となり、「武甲山」の採掘が進みました。現在は、機械・精密産業が製造業の中心となっています。また、秩父市は、秩父夜祭や龍勢まつり、芝桜や紅葉、登山やハイキング、札所34か所巡り、蕎麦まつりなど、多彩な観光資源を有しており年間400万人を超える観光客が来訪していることから、観光産業に従事する人も多くいます。一方で、農業は減少する傾向にあります。



①芝桜の丘



②秩父夜祭

○教育

秩父市には、保育所 18 箇所、幼稚園 10 園、小学校 13 校、中学校 9 校、高等学校 2 校、特別支援学校 1 校があります。

秩父市の学校の状況(2014年5月1日現在)

区分	園・校数	児童・生徒数(人)
幼稚園	10	893
うち市立幼稚園	(3)	(113)
うち私立幼稚園	(7)	(780)
市立小学校	13	3,322
市立中学校	9	1,806
県立高等学校	2	1,639
県立特別支援学校	1	116

出典：秩父市教育委員会

秩父市の保育所の状況(2014年4月1日現在)

区分	保育所数	児童数(人)
市立	7	435
私立(認定こども園を含む)	11	603
計	18	1,038

出典：秩父市こども課

○医療体制

秩父市には、市立病院を含めて 6 つの病院と 62 の診療所があります。市立病院は、地域の中核的な病院としての役割を担っています。

秩父市の医療施設数(2014年3月31日現在)

(単位:箇所)

区分	病院	診療所	歯科診療所	助産所	施術所	歯科技工所
施設数	6	62	35	1	63	9

出典：埼玉県秩父保健所

秩父市の病床数(2014年3月31日現在)

(単位:床)

区分	病院						診療所	合計
	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計		
病床数	352	97	123	0	0	572	71	643

出典：埼玉県秩父保健所

第2章 セーフコミュニティとは？

1 セーフコミュニティとは

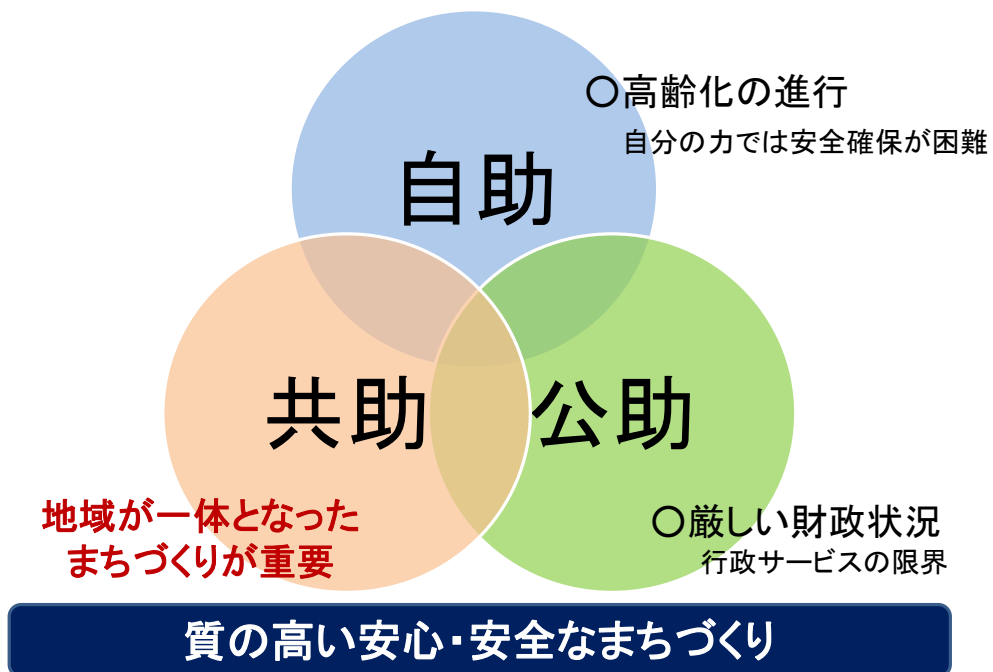
セーフコミュニティとは、「世界保健機関（WHO）地域の安全向上のための協働センター」が、世代や障がいの有無に関わらず、安心・安全に暮らせるまちづくりに継続的に取り組む自治体等を国際的に認証する制度です。

「ケガやそれを引き起こす事故などは偶然に起こるものではなく、予防することができる」という理念のもと、科学的なデータに基づく「プログラム」と、地域・行政・警察・家庭・学校などの「横断的な連携」を組み合わせ、事故・犯罪、災害、自殺等の予防に積極的に取り組む活動です。地域が一体となった取組みを推進することで、質の高い安全なまちづくりが実現できると期待されています。

セーフコミュニティは、新しく特別なことをするのではなく、現在の活動に

- ① 科学的な分析による「予防」
- ② 横断的な「連携・協働」 のふたつの観点をプラスします。

日本国内では、京都府亀岡市、青森県十和田市、神奈川県厚木市、長野県箕輪町、東京都豊島区、長野県小諸市、横浜市栄区、大阪府松原市、福岡県久留米市、埼玉県北本市が認証を取得しています。秩父市は、国内で11番目の認証都市となります。現在、滋賀県甲賀市、鹿児島市、大阪府泉大津市、福島県郡山市が取り組みを推進しています。



2 認証のための7つの指標

セーフコミュニティの認証取得の条件として、次の7つの指標が示されています。この7つの指標に則って活動を推進しています。

<7つの指標>

1. 分野を越えた協働を推進する組織を設置していること
2. 全ての性別・年齢・環境・状況を対象として、継続的な予防活動を実施していること
3. ケガを起こしやすい年齢層や地域などと環境に焦点を当てたハイリスクグループを対象とした予防活動を実施していること
4. 入手可能な『根拠』に基づいた予防活動を実施していること
5. 傷害の頻度と原因を継続的に記録する仕組みを持っていること
6. 予防活動の効果・影響を測定・評価するための仕組みを持っていること
7. 国内及び国際的な「セーフコミュニティ」のネットワークに継続的に参加すること

秩父市における7つの指標に基づいた取組みについては、「第5章」(P13～P33)で詳しく説明しています。

セーフコミュニティでは、地域の課題を解決するため、関係する組織や団体が、力をあわせて安全なまちづくりに継続的に取り組みます。



第3章 セーフコミュニティへの取組み

1 取組みに至った経緯

秩父市では、安心・安全なまちづくりを目指して、これまで多くの取組みを継続的に実施してきました。これまでの努力により、例えば犯罪の発生率は全国平均に比べて低い値となっています。

しかし、高齢化率はすでに28%を超えており、このうち20%は単身高齢者です。さらに、人口は減少の一途をたどっており、特に働く世代や子どもたちの人口は、20年後に30%以上減少してしまう予測となっています。自助では安全を確保できない高齢者が増加する一方で、将来地域を支える若い世代の人口は減少し、安全な地域社会を維持し続けることが困難になっていくことが見込まれています。

秩父市が、将来にわたり安心・安全なまちであり続けるためには、行政だけでなく、あらゆる組織・団体そして市民が協力し合い、連携しながら安全な地域社会を築いていく必要があると考え、その手段として、「セーフコミュニティ」に着目しました。

2 これまでの取組状況

年 月	内 容
2012年 9月	市長が、市議会において取組開始を宣言
2012年 9月	市役所内に推進会議を設置
2012年 11月	秩父市セーフコミュニティ推進協議会を設置
2012年 11月	WHOセーフコミュニティ協働センターに書簡伝達
2012年 11月～	事故やケガに関するデータの収集・分析
2012年 11月	第6回アジア地域セーフコミュニティ国際会議(豊島区)に参加及び発表
2013年 2月	セーフコミュニティシンポジウム開催
2013年 6月	秩父市安心・安全なまちづくりアンケートを実施
2013年 8月	秩父市セーフコミュニティ対策委員会設置(7委員会) ①交通安全、②高齢者の安全、③子どもの安全、④自殺予防、 ⑤犯罪の防止、⑥災害時の安全、⑦自然の中での安全 ※各対策委員会で、2015年5月までの間に、15～16回の会議を開催
2014年 2月	外傷サーベイランス委員会設置
2014年 5月	第7回アジア地域セーフコミュニティ国際会議(釜山市)に参加及び発表
2014年 5月	専門家現地指導(事前審査)
2014年 7月	研修会開催
2015年 3月	講演会開催
2015年 7月	セーフコミュニティ現地審査
2015年 11月	セーフコミュニティ認証取得(国内で11番目)

第4章 外傷による死亡・けが、事故などの状況

秩父市の事故やケガの状況については、人口動態統計、警察統計などの統計データのほか、救急搬送データや労働災害データなどを収集・分析しています。

また、市民満足度調査、高齢者や子どもを対象としたアンケートなど、秩父市がすでに独自に実施している調査も複数あり、これらの行政データも活用します。

1 死亡の状況

人口動態統計からみた死亡原因は、以下のとおりとなっています。

(1) 死亡原因（病気を含む）

19歳以下の子どもでは、「不慮の事故」による死亡が多く、20歳代以上は、「悪性新生物」が多くなっています。また、20歳～40歳代は、「自殺」も多くなっています。

<子どもは不慮の事故による死亡が多い>

	1位	2位	3位	4位	5位
0歳	不慮の事故	-	-	-	-
1～4歳	-	-	-	-	-
5～9歳	不慮の事故	-	-	-	-
10～14歳	不慮の事故	-	-	-	-
15～19歳	不慮の事故、自殺		悪性新生物、脳血管疾患、肺炎		
20～24歳	自殺	心疾患、不慮の事故		悪性新生物	その他
25～29歳	悪性新生物	自殺	不慮の事故	心疾患	肝疾患
30～34歳	自殺	悪性新生物、脳血管疾患、不慮の事故			その他
35～39歳	悪性新生物、自殺		心疾患	不慮の事故	肝疾患、他
40～44歳	悪性新生物	自殺	脳血管疾患	心疾患	不慮の事故
45～49歳	心疾患	悪性新生物	肝疾患	自殺	不慮の事故、他
50～54歳	悪性新生物	脳血管疾患	心疾患	自殺	不慮の事故
55～59歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故
60～64歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肝疾患	感染症、自殺
65～69歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	自殺
70～74歳	悪性新生物	心疾患、脳血管疾患		肺炎	感染症
75～79歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	感染症
80～84歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
85歳以上	心疾患	悪性新生物	脳血管疾患	肺炎	老衰

出典：人口動態統計

(2) 死亡原因 (病気を除く)

乳幼児は「窒息」、19歳以下の子どもは「交通事故」が多くなっています。20歳～74歳までは「自殺」が最も多く、75歳以上では「転倒」や「窒息」なども多くなっています。

＜子どもは窒息や交通事故、20歳～74歳までは自殺が1位＞

	1位	2位	3位	4位	5位	
0歳	窒息(2)	-	-	-	-	
1～4歳	-	-	-	-	-	
5～9歳	交通事故(2)	-	-	-	-	
10～14歳	窒息(1)	-	-	-	-	
15～19歳	交通事故、自殺(各3)		-	-	-	
20～24歳	自殺(4)	窒息、中毒(各1)		-	-	
25～29歳	自殺(3)	交通事故、転倒、他殺、その他(各1)				
30～34歳	自殺(7)	交通事故(2)	-	-	-	
35～39歳	自殺(8)	交通事故(2)	-	-	-	
40～44歳	自殺(12)	交通事故(2)	中毒(1)	-	-	
45～49歳	自殺(7)	中毒(2)	転倒、窒息、火災(各1)			
50～54歳	自殺(8)	転倒(3)	交通事故、溺水、煙(各1)			
55～59歳	自殺(12)	転倒(5)	火災(3)	交通事故(1)	-	
60～64歳	自殺(9)	窒息(3)	転倒(2)	交通事故、その他(各1)		
65～69歳	自殺(15)	転倒(4)	交通事故(3)	窒息(2)	火災(1)	
70～74歳	自殺(6)	交通事故(5)	転倒、その他(各4)		窒息(3)	
75～79歳	転倒(11)	自殺(10)	交通事故、その他(各4)			窒息(3)
80～84歳	窒息(13)	自殺(10)	転倒(9)	交通事故(6)	溺水(5)	
85歳以上	転倒(27)	窒息(15)	自殺(10)	その他(6)	溺水(5)	
全体	自殺(124)	転倒(67)	窒息(44)	交通事故(37)	その他(20)	

※ () は人数

出典：人口動態統計

＜自殺以外では、転倒・転落による死亡が多い＞

死亡原因	死亡者数(人)						
	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
不慮の事故	34	33	26	25	28	34	16
交通事故	5	9	5	4	5	5	4
転倒・転落	13	10	5	10	11	13	5
溺死及び溺水	1	2	2	3	1	3	1
窒息	5	6	10	6	7	6	4
煙及び火災への暴露	3	3	1			1	
有害物質による中毒		1	1	1	1	3	
その他の不慮の事故	7	2	2	1	3	3	2
自殺	16	14	17	18	24	21	14
他殺				1			
その他の外因	2	2		1	4	6	4
合計	52	49	43	45	56	61	34

出典：人口動態統計

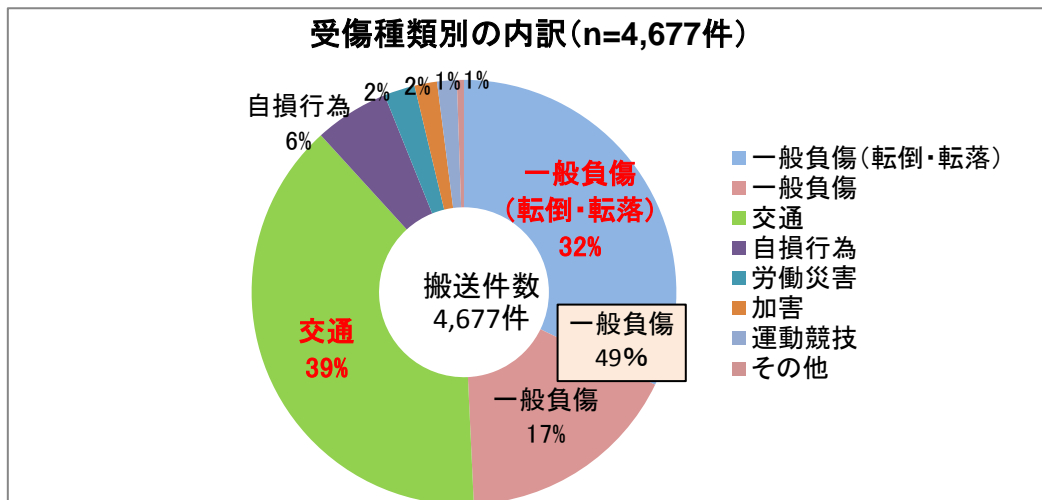
2 ケガの状況

秩父消防本部の救急搬送データ（2008年～2013年）のうち、「急病」や「転院搬送」等を除き、「事故やケガ」による外傷だけを抽出すると、4,677回の救急搬送がありました。

(1) 受傷種類別搬送件数

一般負傷によるものが49%（2,303件）と最も多く、このうち、「転倒・転落」によるケガが多くなっています。次に、交通事故が39%（1,822件）と多くなっています。

<交通事故が約4割を占める。転倒・転落も多い。>

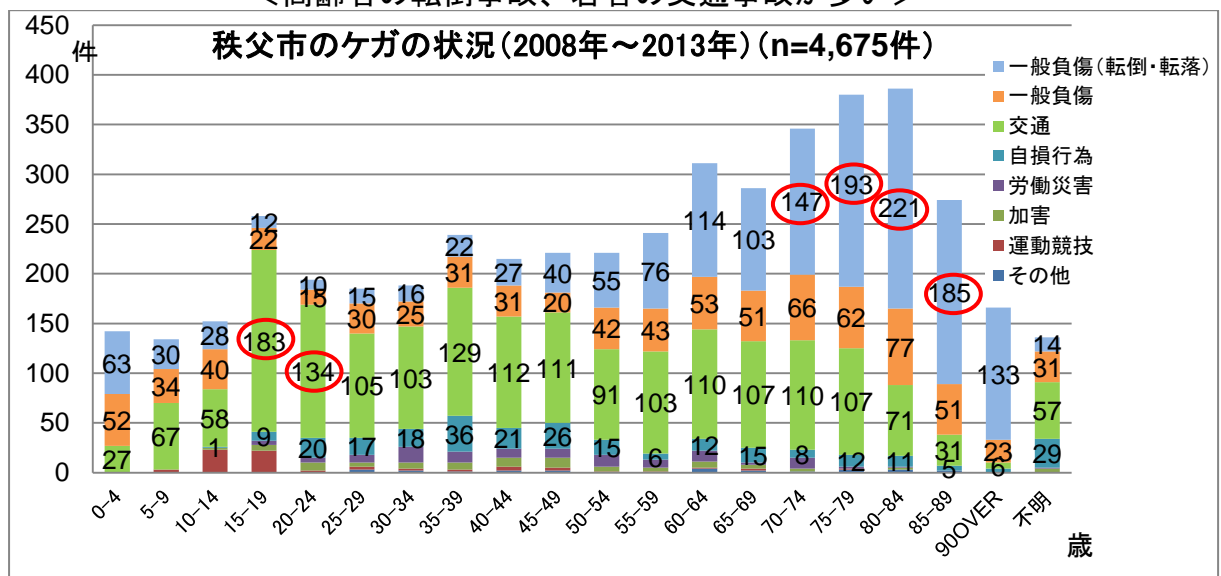


出典：救急搬送データ

(2) 年齢階層別（5歳ごと）搬送件数

高齢になるほど搬送件数が多くなっており、特に、「転倒・転落」によるケガが急増しています。また、15歳～24歳の交通事故も多くなっています。

<高齢者の転倒事故、若者の交通事故が多い>

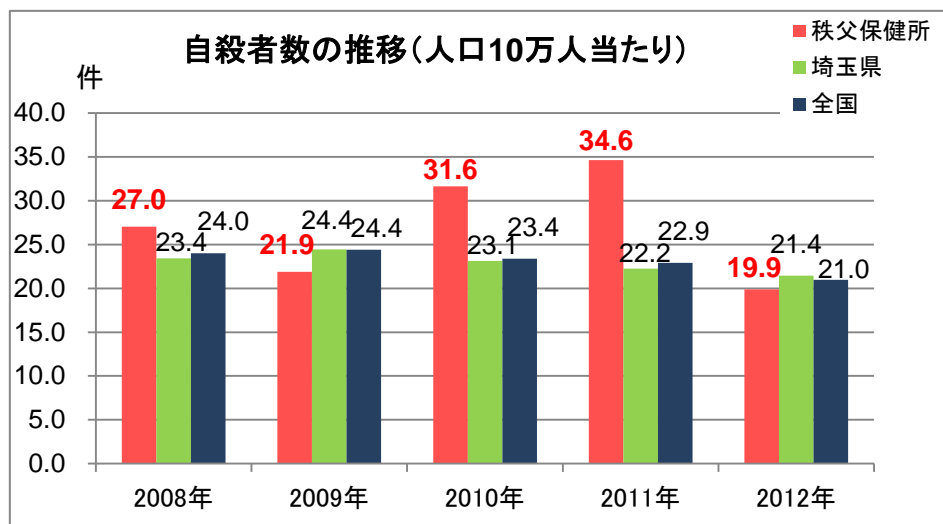


出典：救急搬送データ

3 自殺に関するデータ

秩父保健所管内（1市4町）における人口10万人当たりの自殺者数は、全国平均及び埼玉県平均を上回っていることがわかります。特に2011年は、高い数値となっています。

＜自殺の発生率が、全国や埼玉県と比較して高い＞

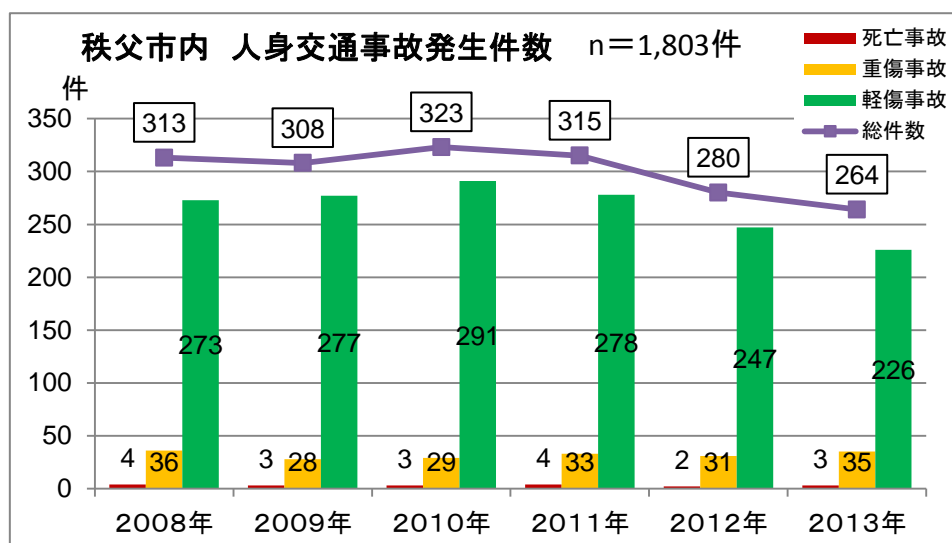


出典：人口動態統計

4 交通事故に関するデータ

秩父市における人身交通事故は、年間300件前後発生しています。セーフコミュニティに取り組み始めた2012年以降は、事故の発生件数は減少傾向にあります。

＜人身事故は減っているが、重傷・死亡事故は横ばい＞

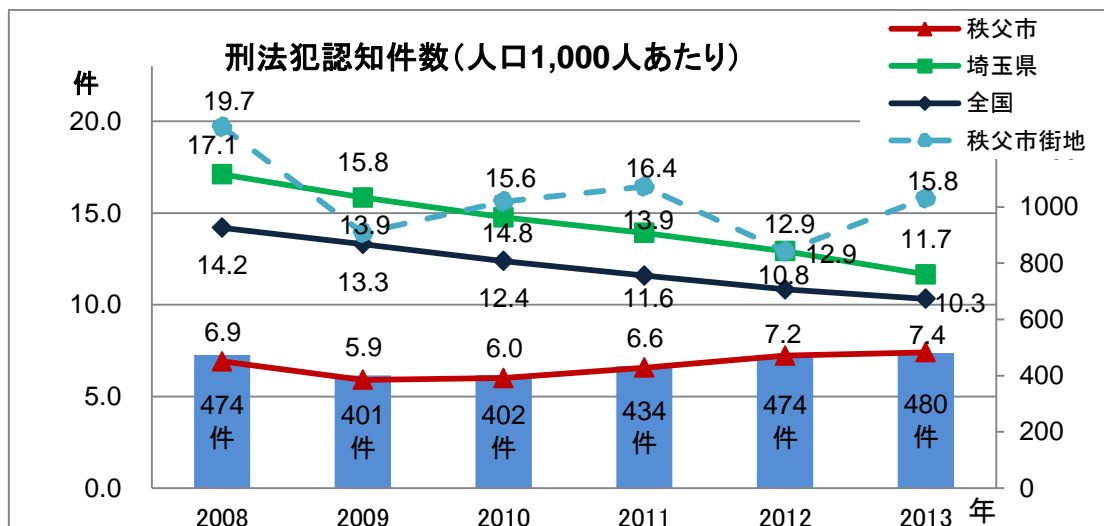


出典：警察統計(2008年～2013年)

5 犯罪に関するデータ

秩父市における刑法犯認知件数は、全国平均や埼玉県平均に比べて低い発生率となっています。しかし、全国・県が減少傾向にある中で、若干増加する傾向にあります。また、市街地（宮側町、番場町、本町、中町、東町、上町）だけの発生率をみると、埼玉県平均を上回っていることがわかります。

<市街地での発生率が高い>



出典：警察統計（2008年～2013年）

6 自然災害に関するデータ

自然災害には、風水害、土砂災害、震災などがあります。秩父市は山間部が多く、がけ崩れや土石流等の土砂災害が発生する危険のある地区が数多く存在します。

<土砂災害の危険箇所が800箇所以上ある>

	秩父市の指定箇所数	埼玉県の指定箇所数	全県に占める割合
○地すべり危険箇所	秩父 6	110	20.9%
	吉田 15		
	大滝 2		
	荒川 0		
○土石流危険渓流	秩父 91	1,202	16.4%
	吉田 68		
	大滝 12		
	荒川 26		
○急傾斜地崩壊危険箇所	秩父 278	2,907	21.3%
	吉田 154		
	大滝 67		
	荒川 120		
	839	4,219	19.9%

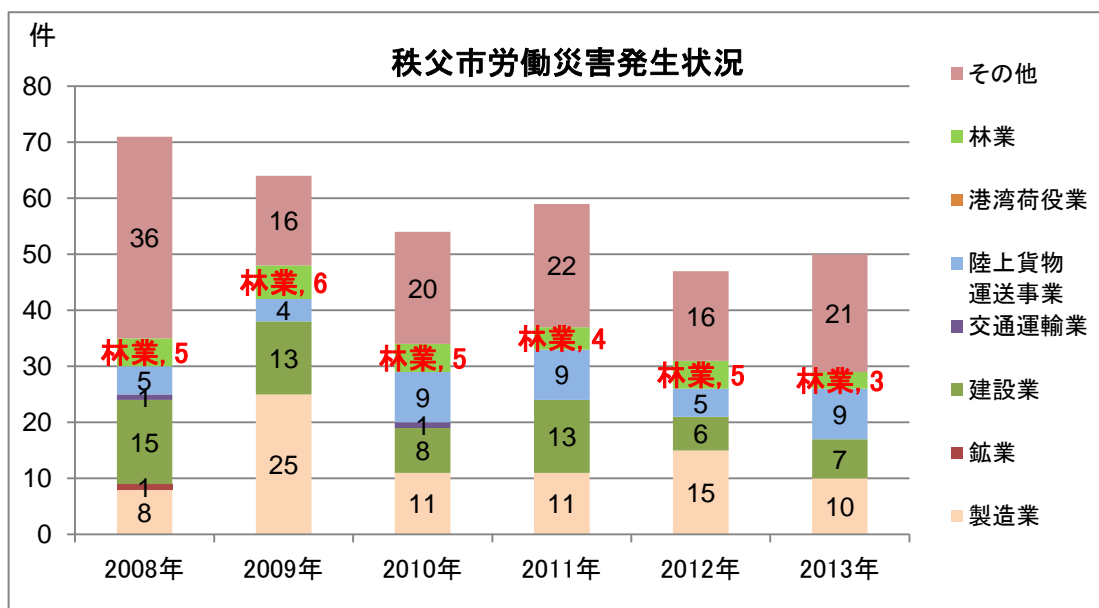
出典：秩父市危機管理課

7 労働災害に関するデータ

秩父市では、年間50～70件の労働災害が発生しています。このうち、「林業」における発生率が、国の平均値より高くなっています。

※国の林業における労働災害発生率は「2件/10万人」です(2008年～2011年の平均値)。

<林業での発生率が高い>



出典：秩父労働基準監督署

8 スポーツ・余暇活動での外傷に関するデータ

秩父市は、自然環境に恵まれており、登山、釣り、サイクリングなどのアウトドアレジャーを楽しむ人が大勢います。また、農林作業に従事する人も相当います。こうした自然環境の中での活動中にケガをすることが多くなっています。

<登山・ハイキング中の受傷が多い>

場 合	件 数	備 考
登山・ハイキング	67	
公園内	43	うちミュージアムパークが35件
河原・沢	36	うち釣りが13件
農林作業中	35	うち16件が機械取扱い中
サイクリング	27	
キャンプ	7	

出典：救急搬送データ

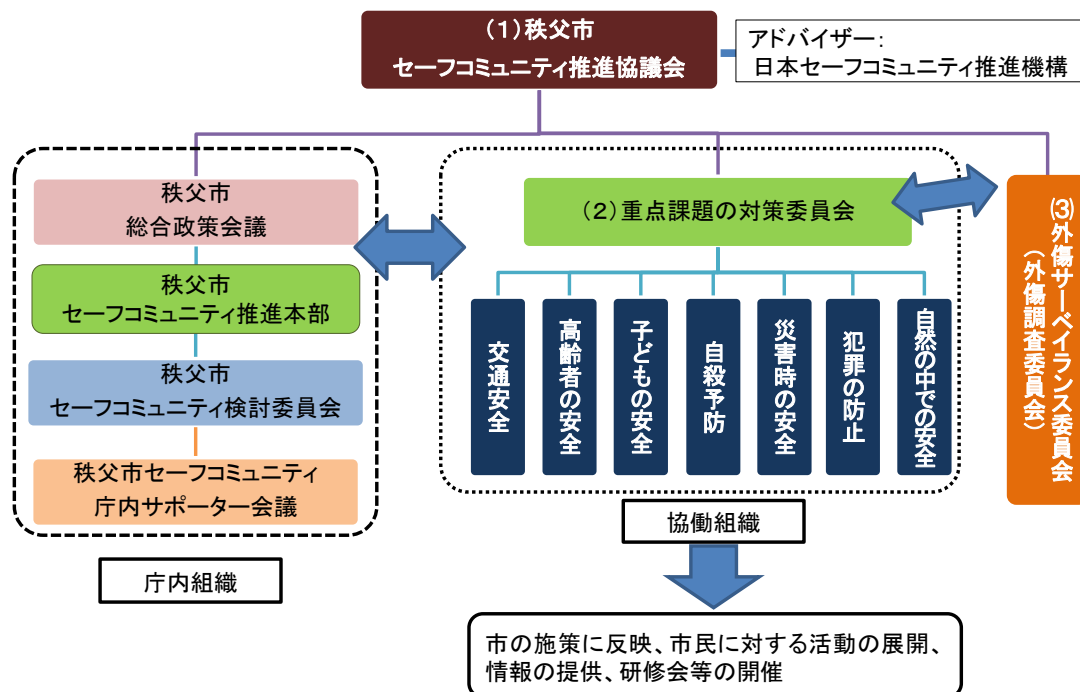
第5章 7つの指標に基づいた取組み

秩父市では、7つの指標に基づいてセーフコミュニティの取組みを以下のとおり推進しています。

<指標1 分野を超えた協働を推進する組織>

セーフコミュニティは、行政が主導するのではなく、地域の様々な組織が分野横断的に協働して安全なまちづくりを推進する仕組みです。そこで、市内の安全・安心に関係する機関や団体等が参加する推進組織を設置しました。

1 セーフコミュニティ活動の推進体制



(1) 秩父市セーフコミュニティ推進協議会

秩父市では、警察や消防など、市内で安心・安全なまちづくりに関係する関係機関や住民組織などの38団体が分野横断的に参加する「秩父市セーフコミュニティ推進協議会」を設置しました。

【構成】

- ①委員：38団体、48人
- ②会長：秩父市長
- ③副会長：秩父市町会長協議会長、
埼玉県秩父地域振興センター所長
- ④設置時期：2012年11月



【役割】

- ①活動の基本方針の決定
- ②活動の推進と情報の共有
- ③活動の普及・啓発

(2) 秩父市セーフコミュニティ対策委員会

地域診断をもとに、セーフコミュニティ推進協議会で決定された重点課題に対して、7つの対策委員会を設置しました。

【構成】

- ①委員:セーフコミュニティ推進協議会構成団体や重点課題に関係する組織からの推薦者(各委員会の構成人数は、以下のとおり)。

No.	委員会名	委員数
A	交通安全対策委員会	11人
B	高齢者の安全対策委員会	16人
C	子どもの安全対策委員会	16人
D	自殺予防対策委員会	23人
E	犯罪の防止安全対策委員会	15人
F	災害時の安全対策委員会	18人
G	自然の中での安全対策委員会	13人

- ②設置時期:2013年8月

【役割】

- ①課題解決のための取り組みの検討
- ②取り組みの推進
- ③取り組みの評価・改善



・上記写真は、対策委員会ワークショップの様子

(3) 秩父市セーフコミュニティ外傷サーベイランス委員会

ケガや事故に関する発生動向の収集・分析や、取り組みの方向性に対する助言・評価を行う仕組みを構築するため、秩父市外傷サーベイランス委員会を設置しました。

【構成】

- ①委員：医療機関、教育・研究機関、専門機関、データを保有する行政機関などから10人の委員を選出しました。
- ②設置時期：2014年2月

【役割】

- ①対策委員会の取り組みが根拠に基づいた活動となるよう助言する
- ②予防活動の成果指標についての検証
- ③活動に関する情報の提供

＜指標2 すべての性別・年齢・環境に対する長期・継続的な予防活動＞

1 予防活動の全体像（抜粋）

秩父市では、これまでも、行政はもとより、様々な団体により多くの安全向上に関する取り組みが、あらゆる性別・年齢・環境を対象として行われています。下表に、その活動内容の一部を抜粋して年齢層別・環境別に整理しました。

		子ども	青年	成人	高齢者
生活環境	家庭	・子どもの発達支援巡回 ・乳幼児健診 ・啓発パンフレット配布	・医療・生活支援相談 ・糖尿病教室 ・障がい者相談	・医療・生活支援相談 ・糖尿病教室 ・障がい者相談	・ふれあいコール事業 ・介護予防事業 ・緊急通報システム事業
	学校	・学校施設の安全点検 ・子ども110番の家 ・AEDの設置、講習会	・PTA活動 ・救急・AED講習会	・PTA活動	
	職場		・障がい者就労支援 ・労働災害防止	・障がい者就労支援 ・労働災害防止	・労働災害防止
	交通 (公共)	・交通安全教室 ・登下校の見守り ・交通安全運動	・交通安全教室 ・交通安全運動 ・飲酒運転撲滅運動	・交通安全運動 ・飲酒運転撲滅運動	・交通安全教室 ・交通安全運動 ・飲酒運転撲滅運動
	余暇	・子供向け水泳教室 ・AED講習会 ・熱中症予防講習会	・救急・AED講習会 ・施設の安全点検	・救急AED講習会 ・施設の安全点検	・シルバースポーツ大会 ・救急AED講習会
意図的	暴力	・児童虐待への対応 ・DV等の対象発見と相談実施	・DV相談 ・暴力排除事業	・DV相談 ・暴力排除事業	・高齢者虐待相談 ・暴力排除事業
	自殺	・いじめ予防	・自殺予防講演会 ・こころの相談 ・予防パンフレットの作成	・自殺予防講演会 ・こころの相談 ・多重債務の相談 ・ゲートキーパーの養成	・自殺予防講演会 ・こころの相談 ・ゲートキーパーの養成
災害		・保育所、学校等での避難訓練	・福祉避難所の設置 ・各公共施設での避難訓練 ・自主防災訓練	・福祉避難所の設置 ・各公共施設での避難訓練 ・自主防災訓練	・災害時要援護者登録台の整備 ・自主防災訓練

<指標3 ハイリスクのグループや環境に焦点を当てた予防活動>

1 ハイリスクグループの概要

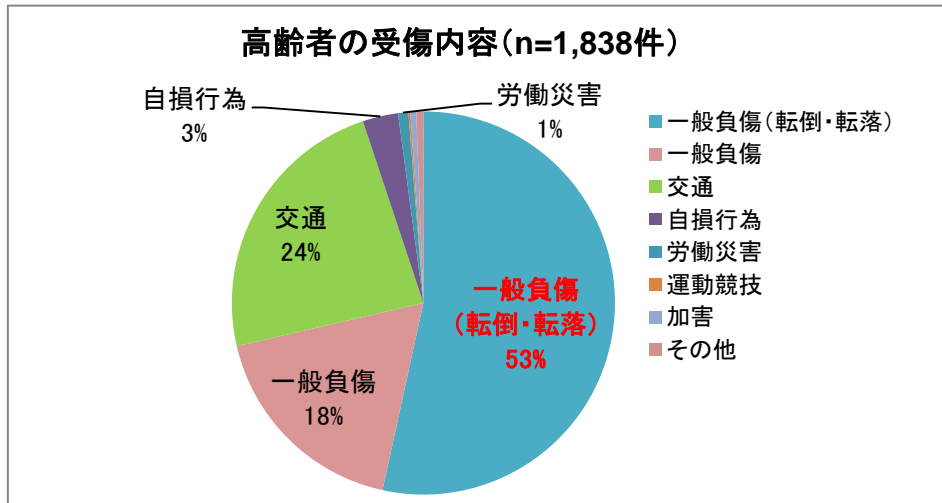
秩父市で、A. リスクの高いグループとして、①転倒や交通事故によりケガをしやすい高齢者、②自宅や学校等でケガをしやすい子ども、③身体障がい者、④自殺のリスクのある人、⑤自然災害により外傷を受けるリスクのある人、などが考えられます。

また、B. リスクの高い環境として、①交通事故が多発している場所、②土砂災害の危険がある場所を設定しました。その設定理由や主な取り組みは以下のとおりです。

(1) リスクの高いグループ

①-1 転倒によりケガをしやすい高齢者

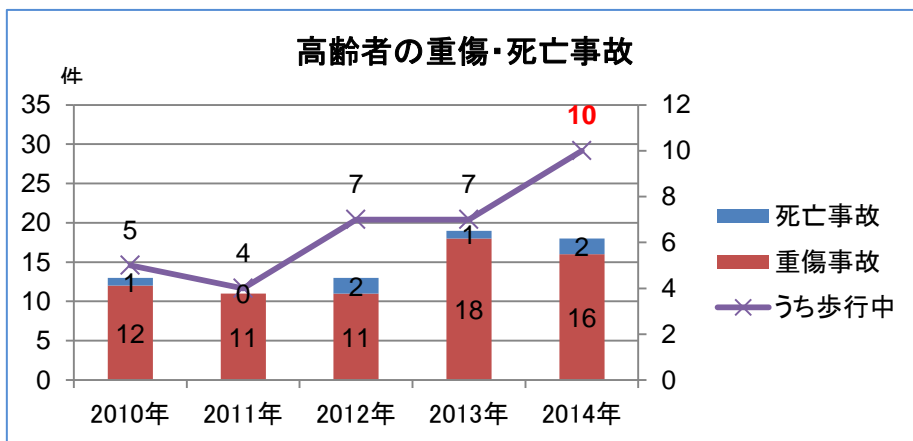
設定理由	・救急搬送データによる高齢者の受傷原因は、転倒によるものが多い。
------	----------------------------------



出典：救急搬送データ（2008年～2013年）

①-2 交通事故によりケガをしやすい高齢者

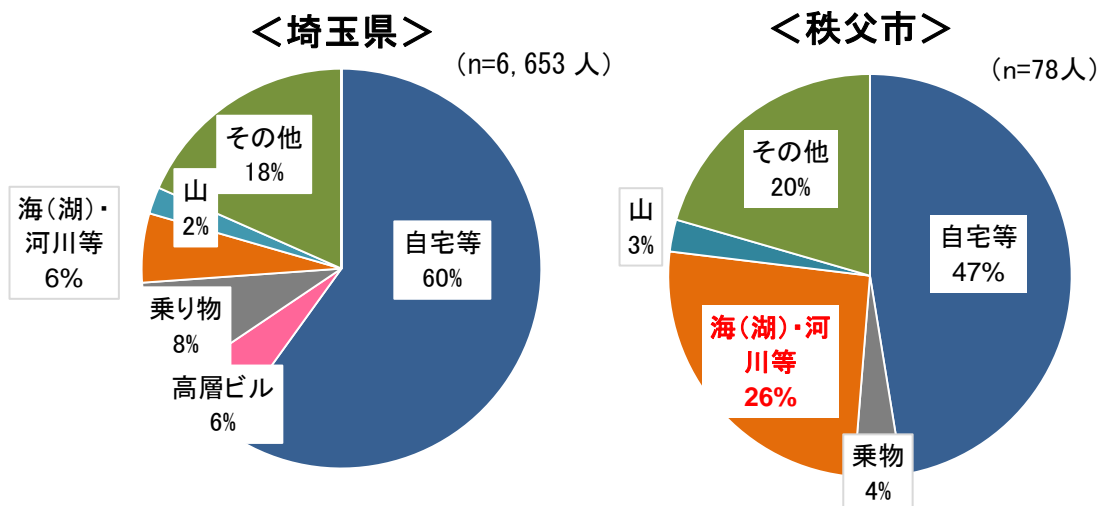
設定理由	・警察統計によると、高齢者は歩行中に交通事故で受傷しやすい。
------	--------------------------------



出典：警察統計

②自殺のリスクのある人

設定理由	<p>・自殺者数は、病気を除く死亡原因の中では最も多く、2011年の秩父保健所管内の自殺率（人口10万人当たり）は34.6で、全国（22.9）、埼玉県（22.2）と比べて高くなっている。特に、40歳代～60歳代の男性の自殺が多い。また、橋からの飛び降り自殺が多い。</p>
------	--



出典：内閣府資料（2009年～2012年累計）

2 ハイリスク環境の概要

(1) 交通事故が多発している場所

設定理由	<p>・特定の地区で事故の発生が多くなっており、重点的に対策を行う必要があるため。特に、大野原地区、黒谷地区の国道140号での発生が多い。</p>
------	---

○大野原地区の交通事故発生状況マップ（★印:軽傷事故 ★印:重傷事故 ★印:死亡事故）



出典：埼玉県警ホームページ（2010年～2013年）

(2) 土砂災害の危険がある場所

設定理由	・秩父市内には 839 箇所の土砂災害警戒区域がある。土砂災害により、住居の損壊や生命の危険が生じる可能性があり、事前に危険箇所や避難路等の確認をする必要があるため。
------	---

<指標 4 入手及び活用可能な根拠に基づいた予防活動>

1 地域診断から得られた課題

秩父市では、これまでの不慮の事故による死傷や自殺などに関する地域診断を踏まえて、優先的に取り組む外傷予防の課題を以下のとおり設定し、予防活動を進めています。

地域診断結果と重点課題

地域診断結果	重点課題の設定
<ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送の約 40%は、交通事故。 ・死亡、重傷事故件数が減っていない。 ・高齢者の重傷事故が多い 	①交通安全
<ul style="list-style-type: none"> ・65 歳以上の高齢者人口が年々増加し、単身者も増加。 ・高齢者の転倒による救急搬送割合が多い ・支援を求めている高齢者が多い 	②高齢者の安全
<ul style="list-style-type: none"> ・学校内、自宅でのケガが多い ・自転車での交通事故が多い ・いじめが増加している 	③子どもの安全
<ul style="list-style-type: none"> ・外因による死亡の第 1 位が自殺 ・全国、埼玉県と比較し、自殺発生率が高い 	④自殺予防
<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪件数は少ないが減っていない。 ・中心市街地での犯罪発生率は、やや高い 	⑤犯罪の防止
<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に対する不安を感じている市民が多い。 ・大雪による災害が発生し、多くの集落が孤立した。 	⑥災害時の安全
<ul style="list-style-type: none"> ・登山・ハイキング中の事故が多い ・農機具を使用中の事故が多い ・サイクリングでの事故が多い 	⑦自然の中での安全

2 重点取組項目

7つの重点課題に対して、各分野において、以下のとおり重点的に取り組んでいく項目を設定しました。

重点取り組み項目

重点分野	重点取組
(1) 交通安全	①高齢者の交通事故防止 ②事故多発箇所の改善
(2) 高齢者の安全	③転倒予防運動の普及 ④見守り活動の充実
(3) 子どもの安全	⑤家庭内でのケガの予防 ⑥学校でのケガの予防 ⑦いじめの防止
(4) 自殺予防	⑧自殺の予防
(5) 犯罪の防止	⑨市街地での犯罪の防止 ⑩防犯意識の向上
(6) 災害時の安全	⑪災害弱者の支援 ⑫地域防災力の向上
(7) 自然の中での安全	⑬登山での事故防止 ⑭農林作業での事故防止 ⑮サイクリングでの事故防止

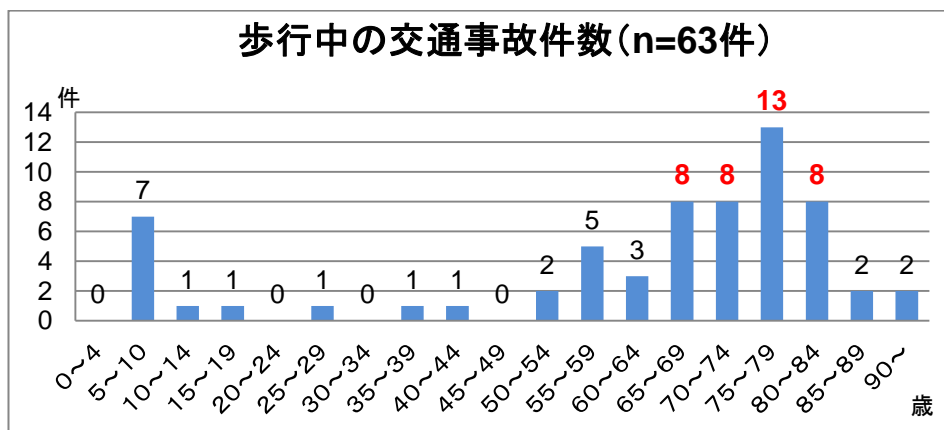
【各分野の課題と重点取り組み】

前記の7つの重点分野について、それぞれ分野横断的な組織や関係機関が参加する対策委員会を設置し、予防活動を推進しています。以下で、地域診断から得られた各課題に対する取組みの内容について、分野ごとに説明します。

(1) 交通安全対策委員会

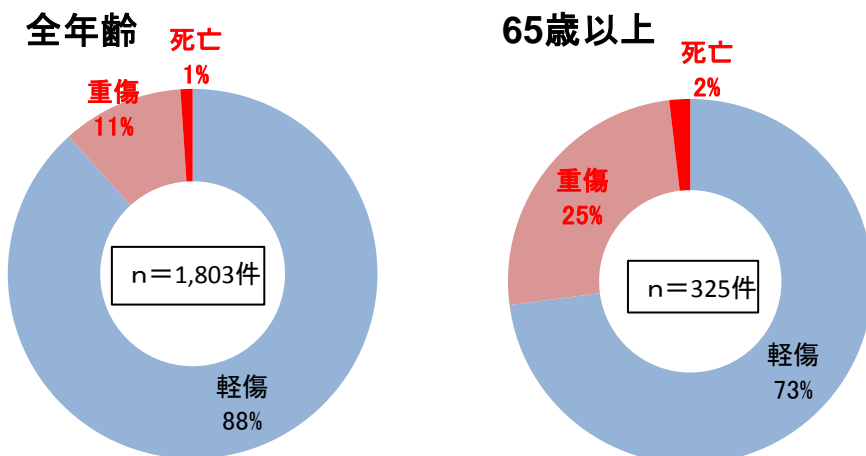
【主な課題1】

高齢者の歩行中の交通事故が多い。



出典：警察統計（2008年～2013年の合計）

また、高齢者の交通事故は重篤なケガになる割合が高い。

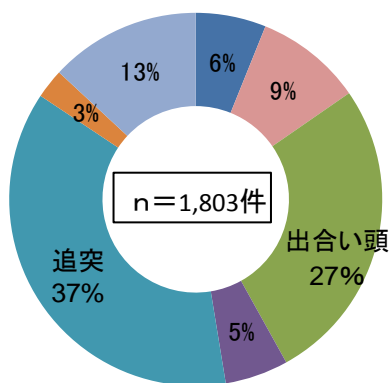


出典：警察統計（2008年～2013年）

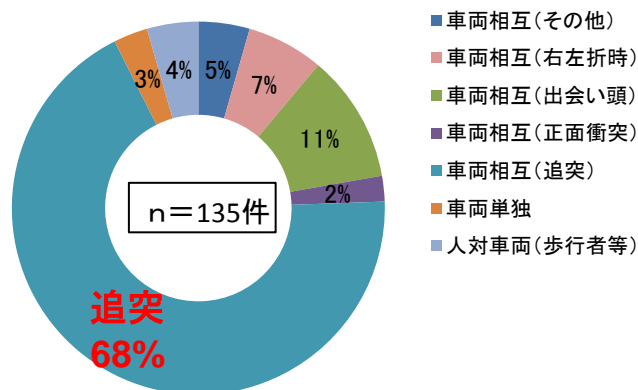
【主な課題2】

「追突」の交通事故が多い。

事故類型別(秩父市全体)

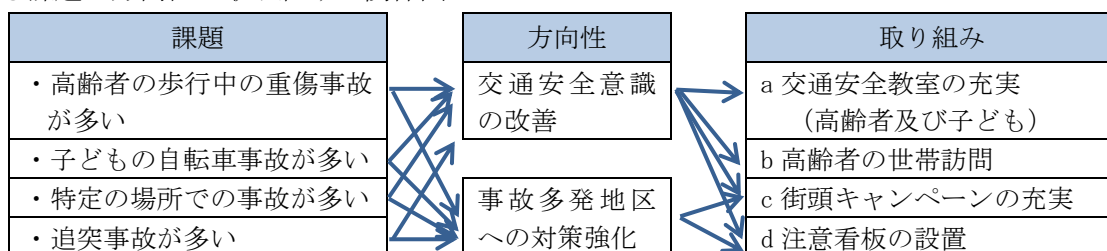


黒谷地区



出典：警察統計（2008年～2013年）

○課題～方向性～取り組みの関係図



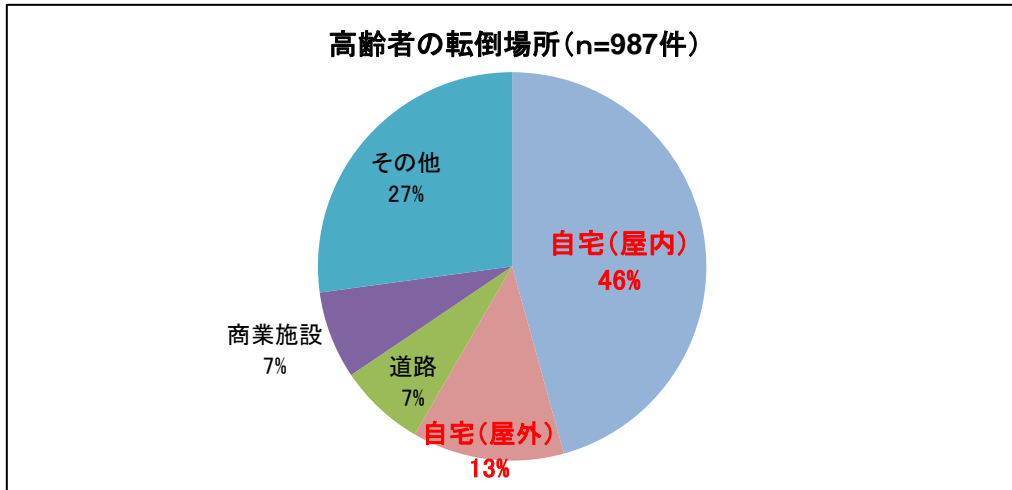
【セーフコミュニティの取り組みによる変化】

- ・秩父市交通安全母の会の活動に加えて、民生委員による高齢者世帯訪問の際に、反射材の着用を呼びかけることになった。
- ・交通安全教室の対象を中学生まで拡大した。
- ・追突事故が多いことから、追突事故防止運動を実施した。

(2) 高齢者の安全対策委員会

【主な課題1】

高齢者は、自宅での「転倒・転落」による救急搬送件数が多い。

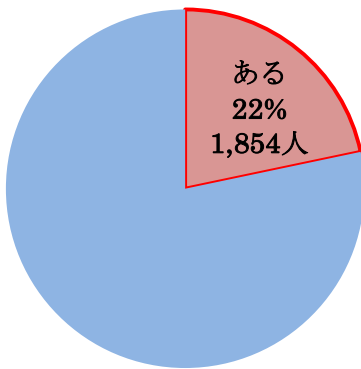


出典：救急搬送データ（2008～2013年）

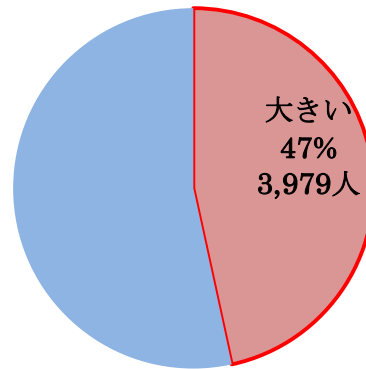
【主な課題2】

転倒について不安を感じている高齢者が多い。

1年以内に転倒したことがある
n=8,542人

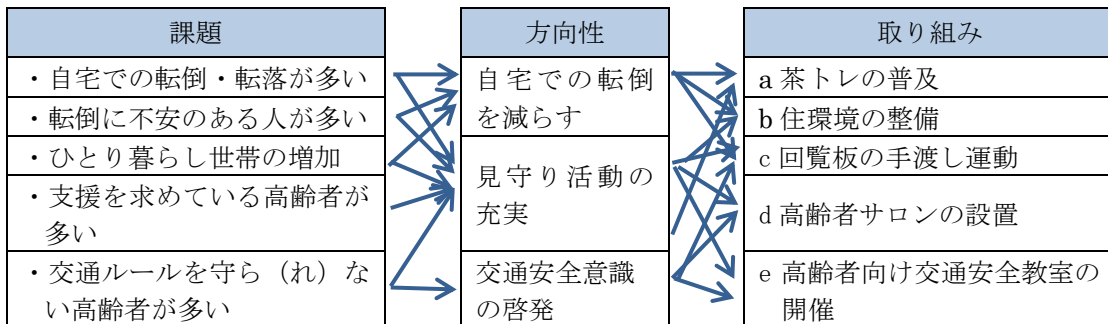


転倒に対する不安が大きい
n=8,542人



出典：介護保険二次予防事業対象者把握調査（2011年）

○課題～方向性～取り組みの関係図



【セーフコミュニティの取り組みによる変化】

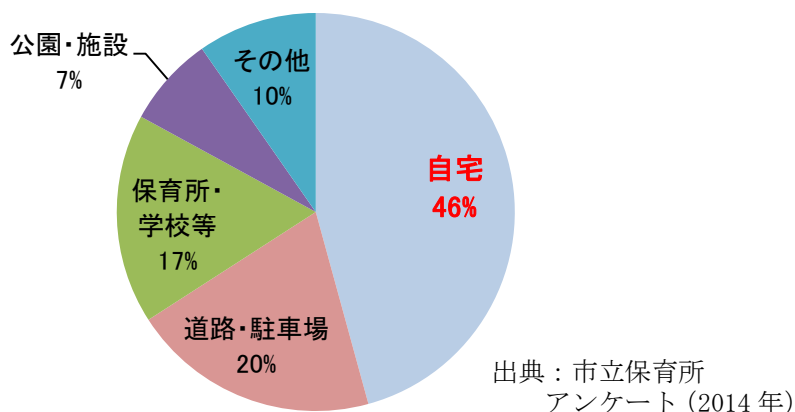
- ・教室参加型では参加者数に限度があるため、老人クラブ等を活用して、家庭でもできる「秩父お茶のみ体操（茶トレ）」を普及させることになった。
- ・大学の協力により、高齢者の家庭でのケガの実態をアンケート調査して、リーフレットを作成することになった。
- ・高齢者の交通マナーが悪いという意見が多かったが、裏付けるデータが無かったため、アンケート調査を実施して交通安全教室に反映した。

(3) 子どもの安全対策委員会

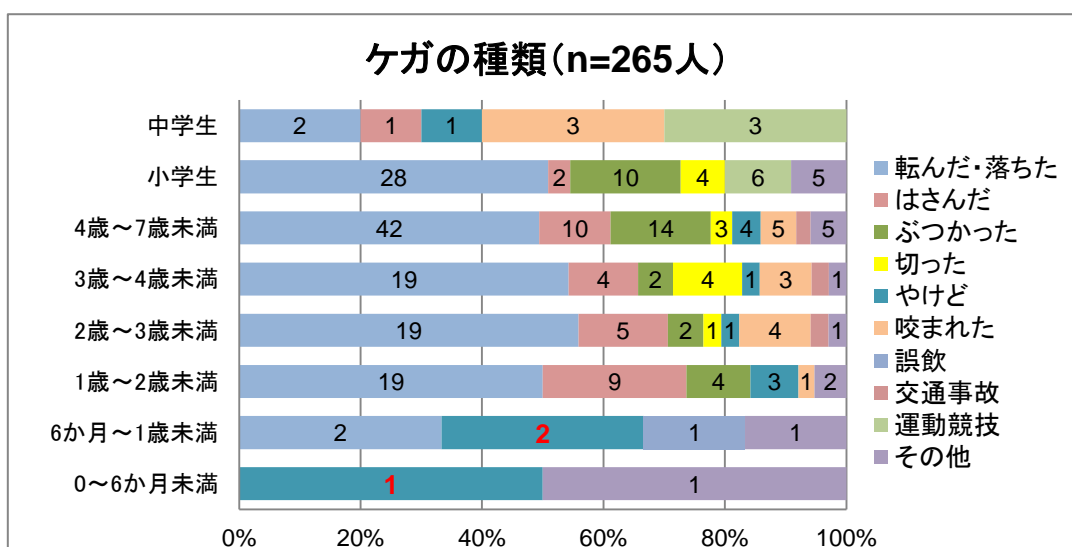
【主な課題1】

未就学児の受傷場所は自宅が大半を占め、特に、乳幼児は火傷が多い。

子どものケガの発生場所(n=258件)



ケガの種類(n=265人)

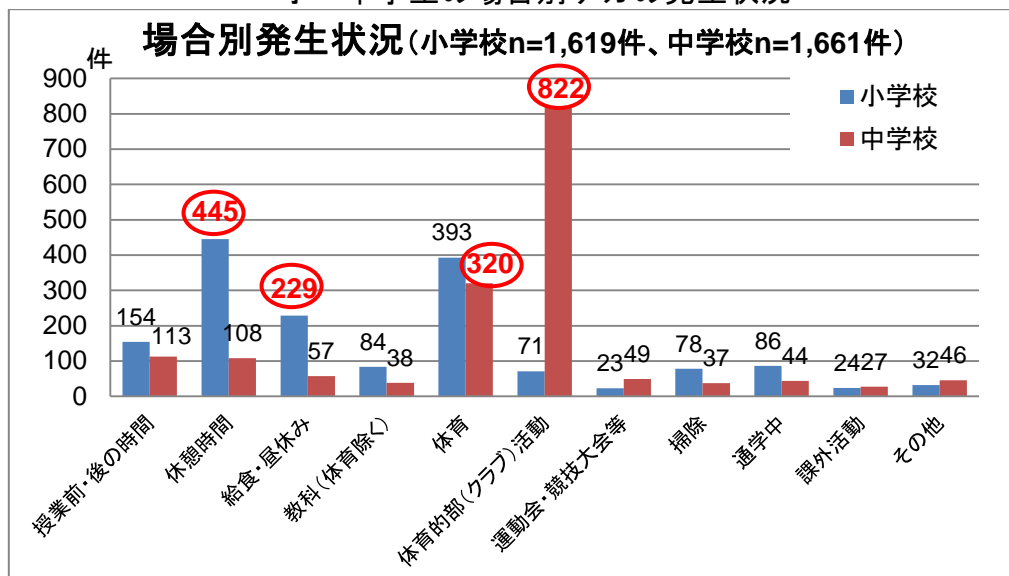


出典：市立保育所アンケート(2014年)

【主な課題2】

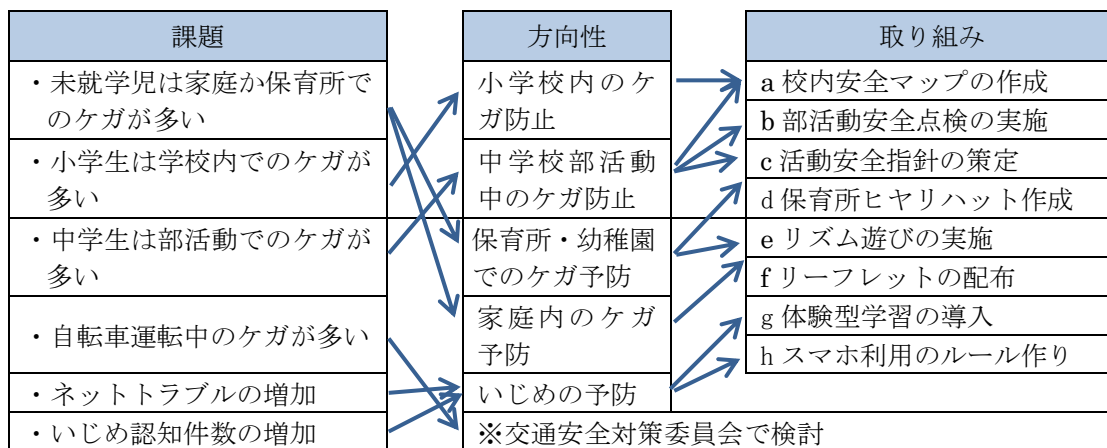
小・中学生は学校でのケガが多く、特に、小学生は休憩時間中の校庭での受傷が、中学生は体育的部活動及び体育の授業での受傷が多い。

小・中学生の場合別ケガの発生状況



出典：日本スポーツ振興センター災害給付データ

○課題～方向性～取り組みの関係図



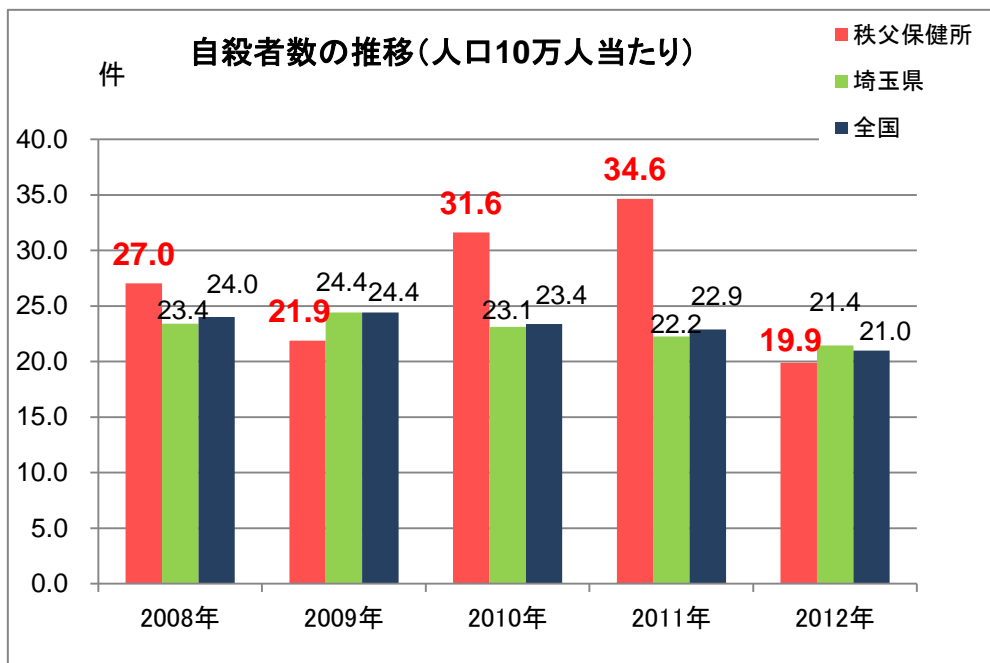
【セーフコミュニティの取り組みによる変化】

- ・ベテラン保育士の経験が生かされていないことから、ヒヤリハット情報を収集し、保育所間で共有するようになった。
- ・未就学児の転倒による受傷が多いことから、体幹を鍛える「リズム遊び」を復活させた。
- ・部活動でのケガが多いことから、生徒と教師が協力し合って点検するようになった。
- ・いじめにつながるケースが多い、「スマートフォン」の利用について、子ども・保護者・教師でルール作りをすることになった。

(4) 自殺予防対策委員会

【主な課題1】

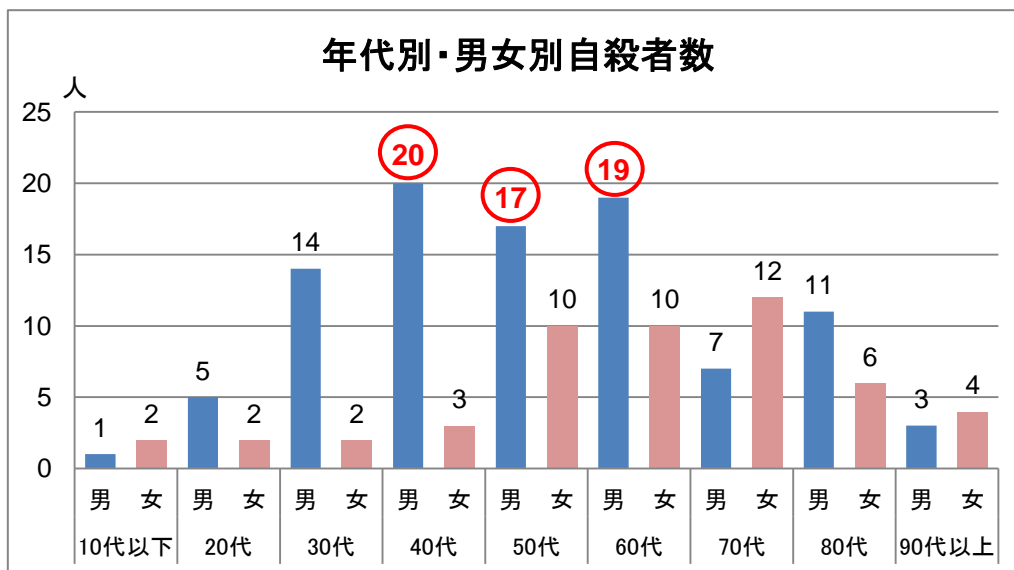
自殺の発生率が、全国や埼玉県と比較して高い。



出典：人口動態統計

【主な課題2】

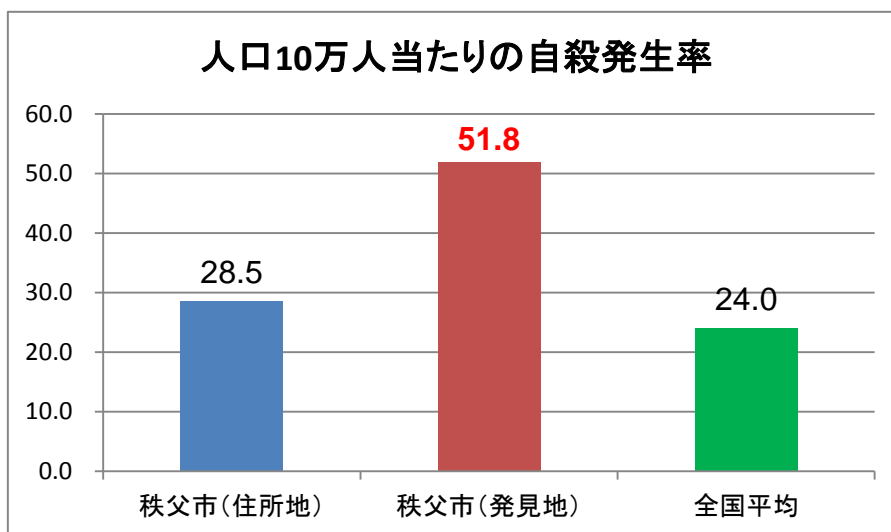
40歳代～60歳代の男性の自殺者が多い。



出展：人口動態統計（2005年～2012年累計）

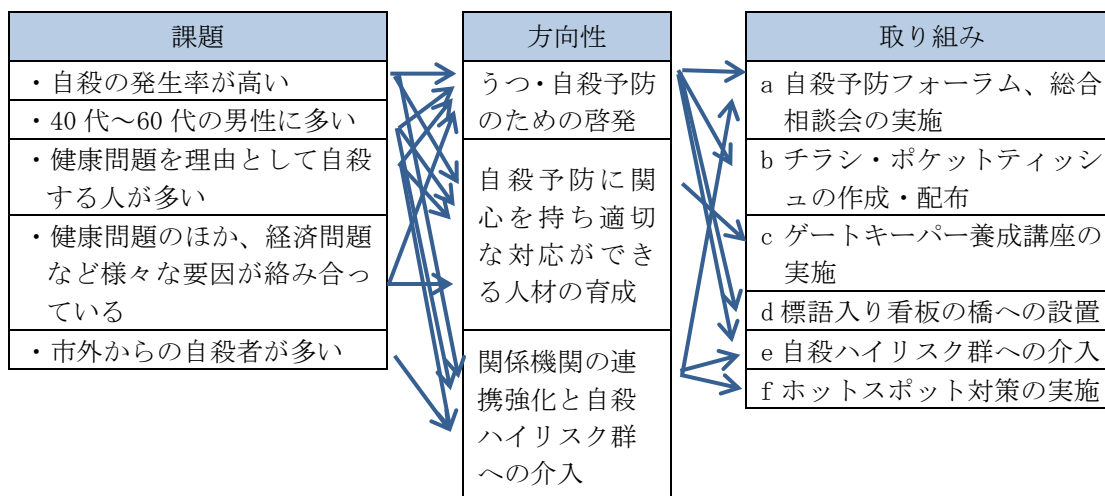
【主な課題3】

秩父以外の地域から来て自殺している人が多い。



出展：内閣府資料（2009年～2012年平均）

○課題～方向性～取り組みの関係図



【セーフコミュニティの取り組みによる変化】

- ・特に40歳～60歳代の男性の自殺が多く、自殺の原因として健康問題に次いで、経済・生活問題が多いことから、対策委員会に司法書士も参加してもらった。
- ・自殺企図者へのアプローチとして、救急隊員から家族にパンフレットを渡すことになった。
- ・観光地としてのイメージダウンを理由に躊躇していた「橋などへの看板設置」について、自殺予防対策を優先するため設置するように変化した。

(5) 犯罪の防止対策委員会

【主な課題1】

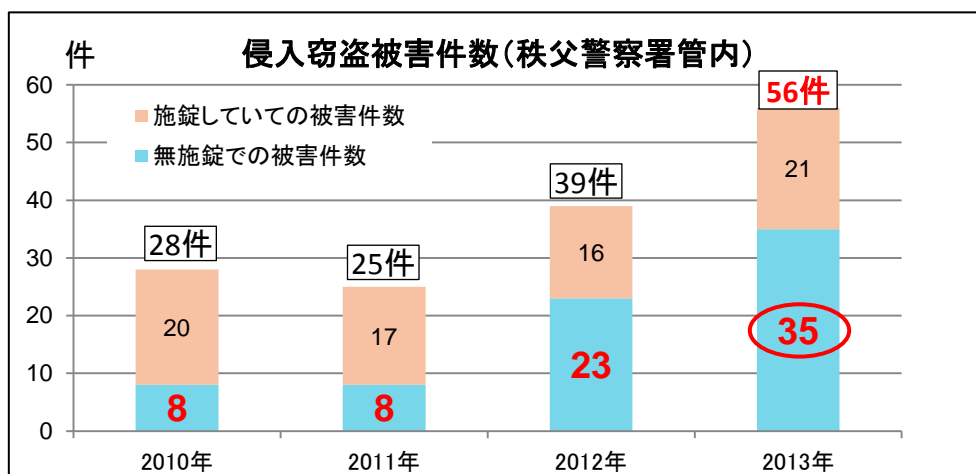
中心市街地での粗暴犯の犯罪発生率（人口1,000人あたり）が高い。

	秩父市		宮側町・番場町・本町・上町・中町・東町		埼玉県	
	認知件数	発生率	認知件数	発生率	認知件数	発生率
2008年	41	0.60	6	1.15	4,725	0.66
2009年	34	0.50	11	2.13	4,297	0.60
2010年	37	0.55	4	0.78	4,123	0.57
2011年	34	0.51	7	1.39	3,903	0.54
2012年	38	0.58	7	1.41	5,016	0.70
2013年	35	0.54	11	2.26	4,874	0.67

出典：秩父警察署

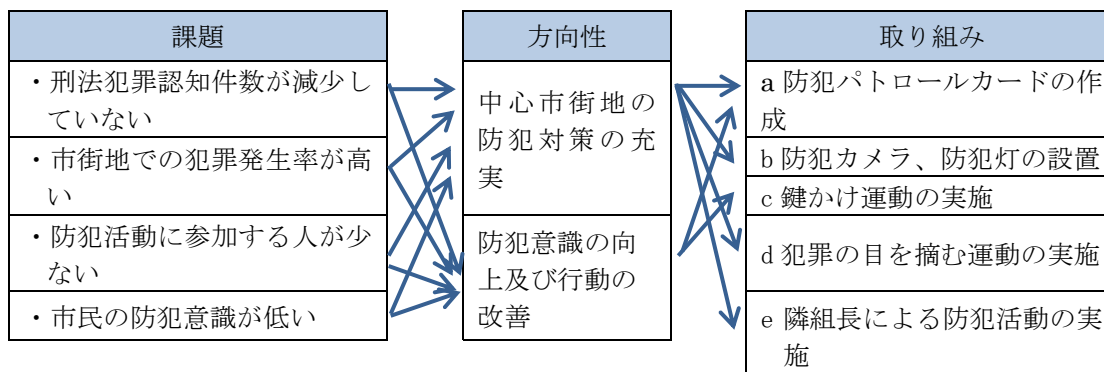
【主な課題2】

市民の防犯意識が低い



出典：秩父警察署

○課題～方向性～取り組みの関係図



【セーフコミュニティの取り組みによる変化】

- ・「パトロールカード」を作成して、パトロール活動を周知するようにした。
- ・パトロール活動への参加者を増やすため、「隣組長」に依頼して、近隣を回るときは、防犯灯の球切れや不審者情報の提供などの協力を求めた。
- ・防犯カメラを設置するとともに、抑止効果を高めるため、「カメラ作動中」の表示シールを貼ることになった。

(6) 災害時の安全対策委員会

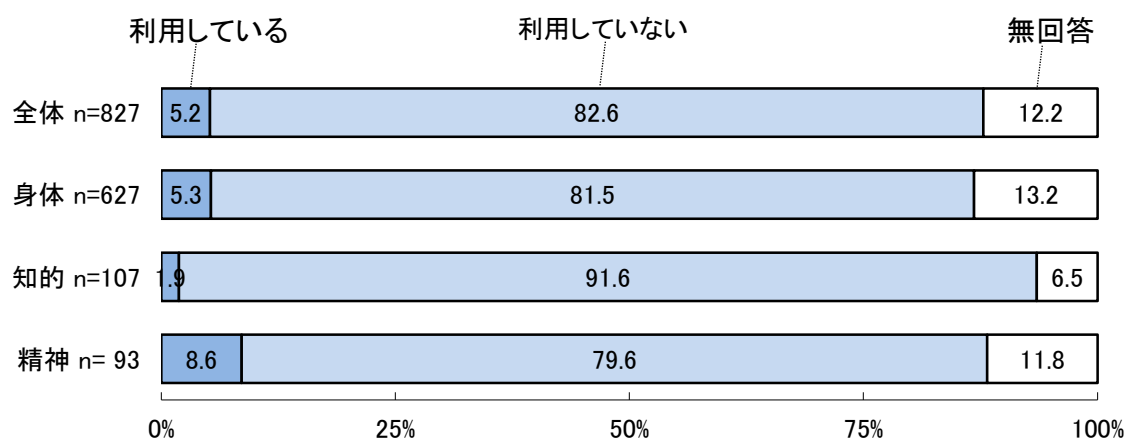
【主な課題1】

2014年2月の大雪災害の際は、最大で12日間にわたり孤立状態が続いた。

地区名	世帯数	人数	孤立解消までの期間
大滝地区 (強石、大血川、大達原、三重槌、 上中尾、栃本、中双里、中津川、 三峰)	464世帯	891人	最大12日間
浦山	65世帯	118人	最大9日間
下吉田(暮坪)	約10世帯	約30人	4日間
吉田久長(藤芝)	約10世帯		4日間
上吉田(千鹿谷、女形)	47世帯	119人	4日間
吉田石間	119世帯	285人	4日間
吉田太田部	26世帯	38人	6日間
計	約740世帯	約1,400人	

【主な課題2】

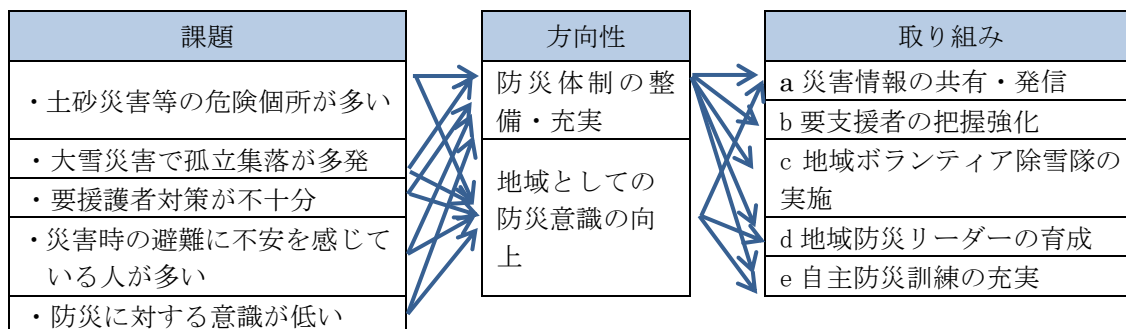
障がい者は、災害時要援護者制度を知らない人が多い。



利用していない理由として、「制度があることを知らなかった」(55.9%)が最も多かった。

出典：秩父市障がい福祉に関するアンケート調査(2011年)

○課題～方向性～取り組みの関係図



【セーフコミュニティの取り組みによる変化】

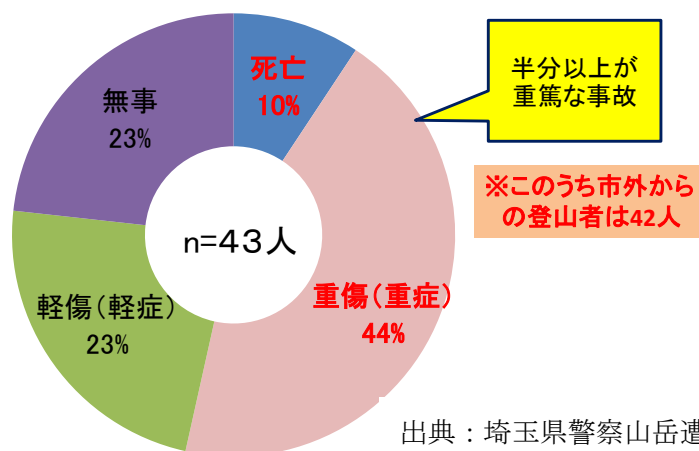
- ・災害時要援護者制度について、障がい者手帳の更新手続きの際に、制度の案内を行うようにした。
- ・自主防災リーダー養成講座を市内で開催することで、参加者が増えた。

(7) 自然の中での安全対策委員会

【課題1】

登山中の事故が多く、重篤な事故も多い。また、市外からの遭難者が多い。

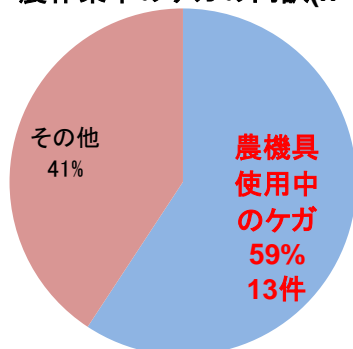
負傷程度別山岳遭難者数(2013年)



【主な課題2】

農林作業中の事故が多く、重傷割合が高い。

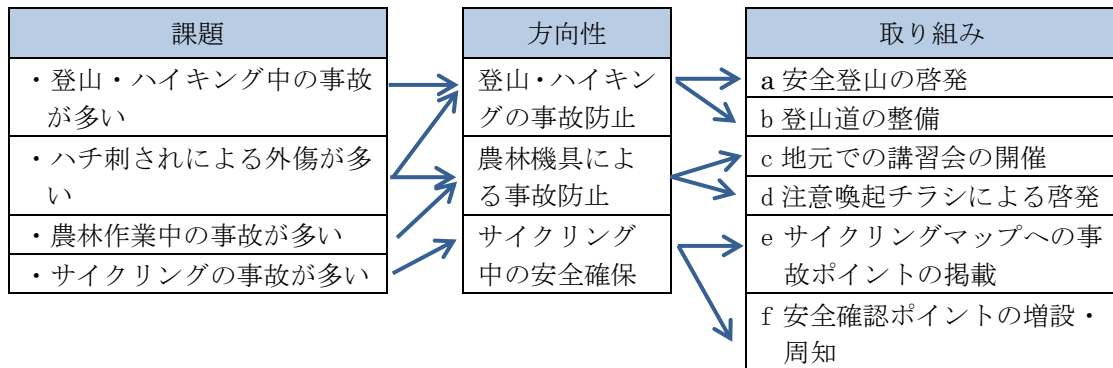
農作業中のケガの内訳(n=27)



ケガの分類	件数	ケガの度合い
挟まれ・巻き込まれ	12	死亡1件 重傷2件 中傷4件 軽傷5件

出典：救急搬送データ (2008年～2013年)

○課題～方向性～取り組みの関係図



【セーフコミュニティの取り組みによる変化】

- ・安全登山を啓発するためのパンフレットを主要駅などに置いた。
- ・ホームセンターに農機具の注意喚起チラシを設置した。
- ・サイクリングの安全ポイントを増設・周知した。

<指標 5 外傷や事故が発生する頻度・原因を継続的に記録する仕組み>

1 外傷サーベイランス委員会の構成と機能

(1) 位置付け

医療、研究機関、外傷に関するデータを所管する機関、行政などで構成し、外傷や事故などの発生状況データの提供、分析を行うとともに、セーフコミュニティ推進協議会や対策委員会に対する助言を行う専門機関として設置しています。

(2) 委員会の構成

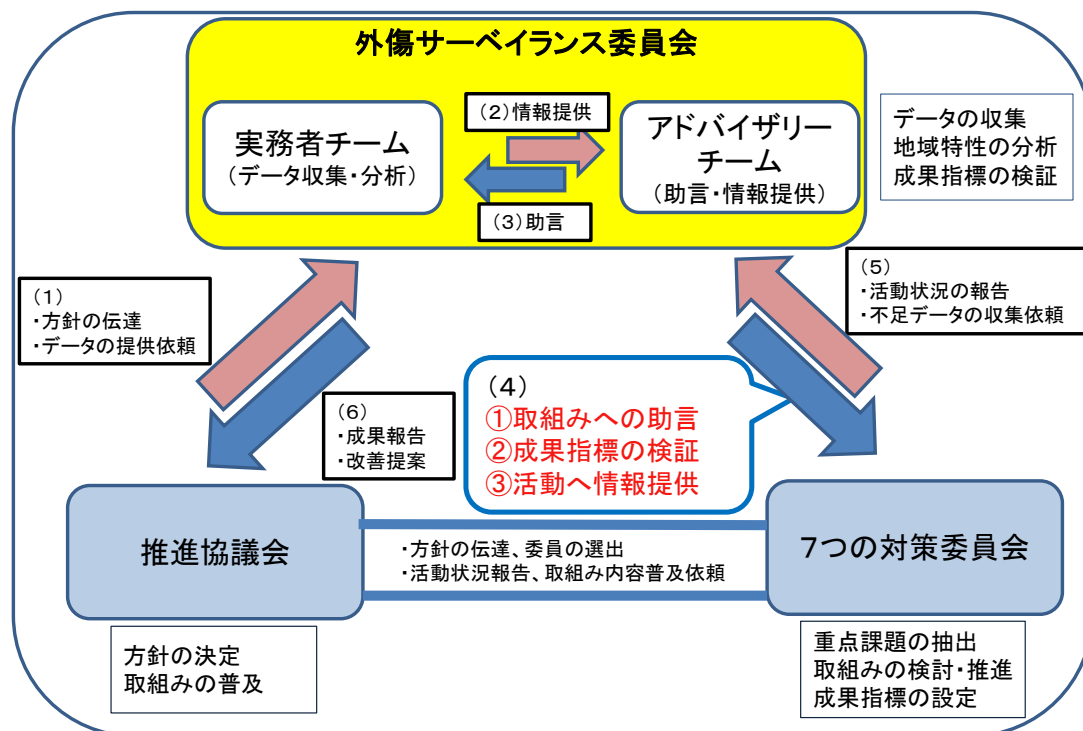
医療、教育・研究機関、行政等などの10名の委員で構成しています。

No.	分野	組織名称	委員数	
1	医療機関	秩父郡市医師会	1人	アドバイザー
2	教育・研究機関	東洋大学、東京大学	2人	
3	専門機関	日本セーフコミュニティ推進機構	1人	
4	行政機関 (データ保有)	埼玉県秩父保健所、秩父警察署、 秩父消防本部、秩父市立病院	4人	実務者 (データ収集・分析)
5	行政機関(事務局)	秩父市(地域政策課、危機管理課)	2人	

(3) 機能

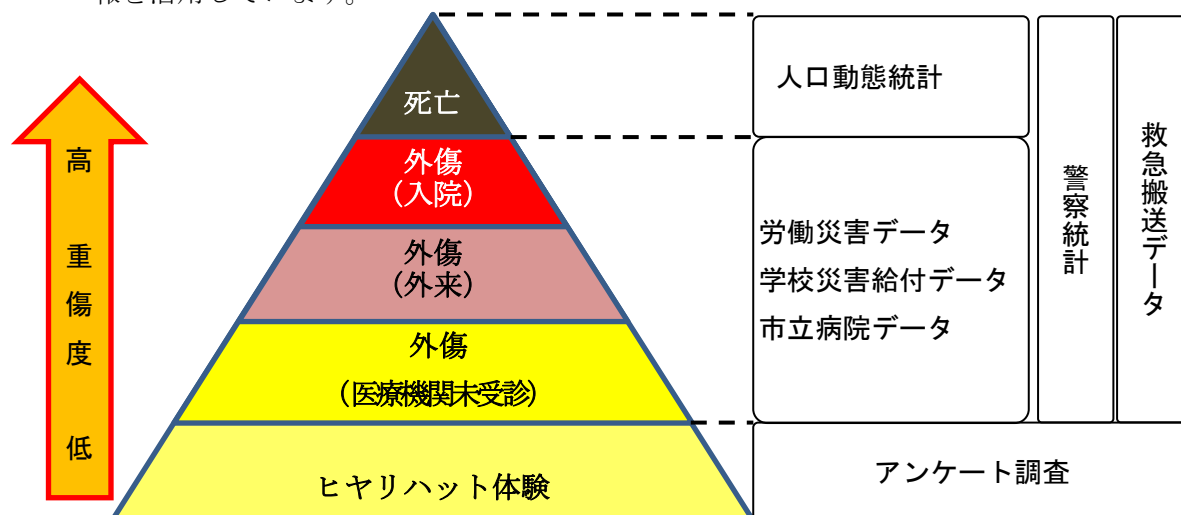
外傷等の発生状況に関するデータの収集および分析を行い、推進協議会や対策委員会と連携を図りながら、予防活動に対する助言、効果・影響等の評価を行います。

外傷サーベイランス委員会の機能のイメージ



2 外傷調査の全体像

秩父市では、外傷の発生状況に関して、既存の統計情報やアンケート調査から得た情報を活用しています。



3 外傷調査を構成するデータ

秩父市では、セーフコミュニティ活動を進めていく上で、外傷サーベイランス委員会や各対策委員会において、様々な事故やケガに関するデータを活用しています。主なデータは次のとおりです。

【活用している主なデータ】

区分	名称	内容	収集元
医療機関データ	市立病院外傷データ	市立病院の外来・入院データ	秩父市立病院
行政機関によるデータ	人口動態統計	死亡原因、自殺情報など	厚生労働省
	警察統計	交通事故、犯罪に関する情報	埼玉県警
	救急搬送データ	事故やケガによる救急搬送情報	秩父消防本部
	労働災害データ	労働災害に関する情報	秩父労働基準監督署
	学校災害給付請求データ	小中学生のケガの情報	日本スポーツ振興センター
アンケート調査	事故やケガに関するアンケート	事故やケガの発生状況、犯罪や災害に対する不安など	秩父市
	市民意識調査	防犯・防災施策など38施策に対する重要度と満足度	秩父市
	介護保険2次予防事業対象者把握調査	家族構成、健康状態、外出状況、友人とのつきあい、転倒・閉じこもり等に関する項目など	秩父市
	高齢者日常生活圏域ニーズ調査	閉じこもり・転倒・口腔機能・物忘れなどのリスク状況、高齢者の虐待、求められるサービスなど	秩父市
	地域福祉に関する市民意識調査	就業状況、地域社会との関わり、ボランティア活動への参加、災害時の避難についてなど	秩父市
	障がい福祉アンケート	障がいの内容、生活環境、保育・教育の状況、悩み事や相談、防災・防犯への備えなど	秩父市
	子育て支援ニーズ調査	家族構成、子どもの数、就労状況、病気・ケガによる休暇状況、地域社会への関わりについてなど	秩父市

4 外傷サーベイランス委員会の開催状況

これまでに、6回の会議を開催しました。

回数	開催日
第1回	2014年2月5日
第2回	2014年4月25日
第3回	2014年8月11日
第4回	2014年11月26日
第5回	2015年1月28日
第6回	2015年5月27日

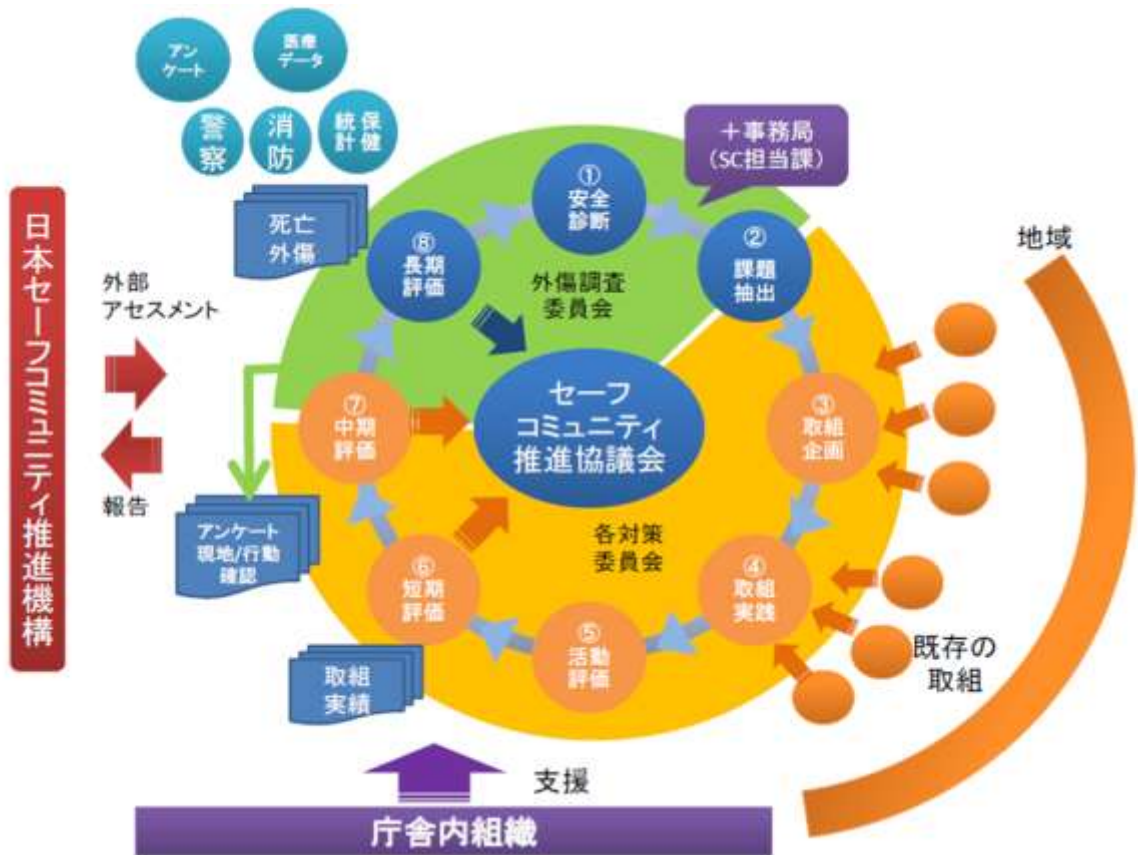


<指標 6 予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組み>

1 セーフコミュニティプログラムの進行管理

秩父市では、外傷調査により収集した様々なデータに基づいて地域診断を行ったうえで、課題を抽出し、その課題を解決するための取り組みを企画・実践しています。実践した取り組みの効果を測定するため、短期・中期・長期の指標を設定し、評価を行っていきます。プログラムの進行に際しては、一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構の支援を受けています。

<プログラムの進行管理>



出典：日本セーフコミュニティ推進機構

<指標 7 国内・国際的なネットワークへの継続的な参加>

1 国内ネットワークへの参加

(1) 国内のセーフコミュニティ取り組み自治体との交流

年 月	内 容
2012年9月	市民安全・安心フェスタ 2012（小諸市）参加
2012年10月	京都府亀岡市 再認証事前審査視察 大阪府松原市 事前審査視察 セーフコミュニティサミット（豊島区）参加
2012年11月	東京都豊島区 認証式典参加
2012年12月	長野県小諸市 認証式典参加
2013年2月	京都府亀岡市 再認証式典参加
2013年8月	大阪府松原市 現地審査視察 福岡県久留米市 現地審査視察
2013年10月	神奈川県横浜市栄区 認証式典参加 埼玉県北本市 事前審査視察
2013年11月	大阪府松原市 認証式典参加
2013年12月	福岡県久留米市 認証式典参加
2014年5月	滋賀県甲賀市 事前審査視察 青森県十和田市 再認証事前審査視察
2014年7月	日本セーフコミュニティ推進機構主催研修会参加
2014年10月	日本市民安全学会東日本大会（浦安市）参加・発表 神奈川県厚木市 再認証事前審査視察
2014年11月	福島県郡山市 セーフコミュニティシンポジウム参加 埼玉県北本市 現地審査視察
2015年2月	青森県十和田市 再認証式典参加

2 国際ネットワークへの参加

年 月	内 容
2012年11月	第6回アジア地域セーフコミュニティ会議（豊島区）参加・発表
2014年5月	第7回アジア地域セーフコミュニティ会議（韓国・釜山市）参加・発表

第6章 セーフコミュニティ活動の長期的展望

1 長期的な展望

(1) セーフコミュニティの基本理念の共有

「ケガや事故は偶発的に起こるのではなく、原因を究明することにより、予防できる」というセーフコミュニティの基本理念を多くの市民と共有するために、セーフコミュニティ活動の普及・啓発に努めます。

また、警察・消防・医療など地域安全にかかわる機関を始め、学校・企業・民間団体、さらには、町会等の地域団体との連携を深め、質の高い安全なまちづくりを継続的に推進します。

(2) 外傷データ等の有効活用

外傷サーベイランス活動を進める過程で、各分野・組織において収集したデータを分析し、各対策委員会における課題解決のために有効活用します。これにより、根拠ある取り組みを実践していきます。また、年間活動報告を作成する際には、外傷サーベイランス委員会を始め、各対策委員会において効果の測定や評価を実施します。

(3) 地域活動の推進及び活性化

秩父市では、高い組織率を背景に、町会を中心としたまちづくりが充実しています。そこで、関係機関と町会との情報共有に努めるとともに、町会間における連携・交流も推進することにより、市内全域にセーフコミュニティ活動が展開していくことを目指します。

(4) 国内外のセーフコミュニティとの連携

国内外のセーフコミュニティネットワークへ継続的に参加し、各コミュニティとの情報共有や連携を図ります。特に、国内においては、セーフコミュニティ認証自治体及び準備自治体とのネットワークを重視し、セーフコミュニティ活動を通じて、協力体制を築いていきます。また、国内において、セーフコミュニティ活動が多くの自治体に広がっていくよう、普及に努めます。

2 長期的な活動を確保するためのプログラム

データの収集・分析(See)、重点課題の把握と方向性の決定(Plan)、対策の推進(Do)、成果の測定(Check)、取り組みの改善(Action)というS-P-D-C-Aサイクルを確認しながら、計画的な施策の推進とセーフコミュニティ活動の継続性を確保するため、行政評価システムによる総合振興計画の進行管理を毎年実施します。

体系的に取り組みの効果を確保することで、5年毎の再認証につなげていきます。

<各対策委員会の皆さん（現地審査終了後の記念撮影）>



秩父市セーフコミュニティ国際認証報告書

編集・発行：秩父市セーフコミュニティ推進協議会
(事務局：秩父市総務部危機管理課)

発行日：平成27年11月15日

〒368-8686 埼玉県秩父市熊木町8番15号
TEL 0494-22-2211 (代表)